

優遊悠



野菜編

水田 茂穂

アカザ科の一・二年生草本です。原産地は地中海沿岸から中東地域で、紀元前1千年くらいには栽培されています。日本へは17世紀に中国から伝わっています。

年間通し種まき、収穫

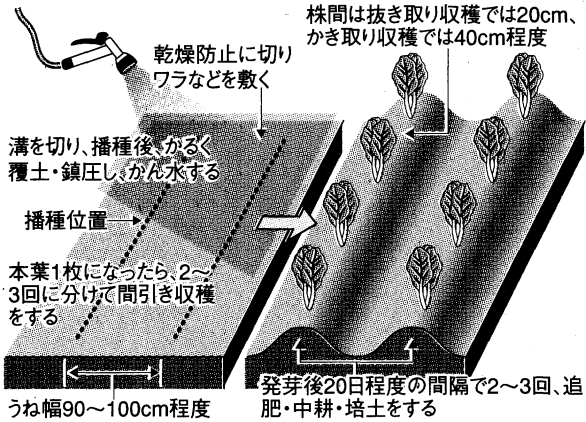
時を選ばず種まきができ、生育が旺盛で、葉をかき取っても次々に若い葉がでて、一年中とぎれることなく収穫ができることから不断草(ふだんそつ)の呼び名になっています。別名トウチシャとも呼ばれ、鹿児島ではエドナ、関西ではウマイナなど各地でいろいろな呼び方がされています。

耐暑性が強いので、夏の厳しい西南暖地では夏場の青菜として珍重されてきました。近年、ホウレンソウの耐暑性品種が出るようになり、栽培は家庭菜園程度に減少しています。カルシウム、鉄、カロテン、

フダンソウ

ビタミンB2などを豊富に含み、ホウレンソウに匹敵する優れた黄緑野菜です。ホウレンソウと同様におひたし、あえ物、スープなどに利用されます。発芽適温は25度で、盛夏期でもよく発芽・生育します。また、比較的低温にも強いです。主に4月に播種して6月ごろから収穫する春まき栽培と、9、10月に播種して年内から4月ごろまで収穫する秋まき栽培があります。ここでは、じかまきの春まき栽培を紹介します。

日当たりが良く排水の良いほ



フダンソウの栽培

場を準備します。播種の1週間前までに1平方メートルあたり堆肥2キ、苦土石灰100g、化学肥料60g(3要素15%の場合)程度を施し、耕うんします。うね幅90~100cmに浅く溝をきり、すじ条に播種します。種子が隠れる程度に覆土し、くわなどで軽く鎮圧後、かん水します。また、乾燥防止に切りわらなどを敷きます。

発芽後、本葉1枚のころから2、3回に分けて間引きをします。間引き収穫をしながらの抜き取り収穫では株間20cm、かき取り収穫では株間40cmにします。発芽後20日程度の間隔で追肥(10g)を2、3回します。また、同時に除草をかねて中耕・培土をします。

発芽後30日くらい、草丈20cm程度で収穫です。大きい株から順次間引いて収穫します。かき取り収穫は大きくなった下葉から、茎を傷めないように丁寧にかき取って収穫します。

(鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長)

◆「エシヨイ園芸 野菜編」は今回で終了します。